



特定医療法人社団

鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス
<http://www.goodream.co.jp/hoyukai/>

発行:2010年8月15日
発行責任者: 鵬友会
特定医療法人社団 事務局長 池島 守

臨床検査その役割

～24時間対応・院内感染対策への取り組み～

湘南泉病院 検査科 技師長 高橋 幸雄



【はじめに】 臨床検査は診療において科学的な情報を提供する部門で、その内容は非常に多岐に亘っており、化学的分析、形態学、免疫学、画像などがあり、例えて言うならば、メニューが多様なレストランのようなものです。その多岐に亘る項目の一つ一つが異なった意味を持ち、診断や治療に欠くことのできないものばかりです。そんな臨床検査が円滑に行われるためには、患者様に直接接する医師、看護師の協力なしには成り立ちません。私達はその協力を得ながら、患者様の安心・安全と効果的な治療に役立つことができると考えています。

【具体的な取り組み】 多様なメニューについてすべて検査室で行える訳ではありません。緊急性の高い検査、全身状態がある程度把握できる検査項目、診断の有用情報としての画像検査などから選択し、迅速に検査結果が得られる項目を院内で実施しています。外来患者様の検査は、基本的には受付してから30分以内に結果を提出することとし努力しています。このことが定着し、現在では、外来検体検査の90%以上が至急で発せられ、診療にあたって当日の検査結果が活かされ、同時に患者様にお渡しする結果も用意し、療養に役立てていただいております、何よりも患者様の安心と信頼が、私達臨床検査技師の願いであります。

【救急医療へのサポート】 救急医療を365日受け入れる体制となり、検査科も24時間検査受け入れ体制を取っています。夜間休日は技師1名が当直制で臨み、血液検査、心電図、輸血検査など必要な時に必要な検査が行える検査室としてスタッフ一同

輪番でその任にあたっています。又、病棟の業務が円滑に行われるための協力と、先に申し上げた外来至急検査が30分以内の報告を維持するために、入院患者様の血液検査を早朝に検査し、日勤業務開始までに検査結果を報告する仕組みがスタッフによって定着し、そのために日常業務が円滑に運ぶようになっていきます。

【診療の利便性のために】 今年1月から、検査業務のシステムの更新にあたり病棟、外来に設置されている端末で検査結果を表示することが可能となり、当日の検査や過去のデータを表示し、患者様への説明に利用されるようになりました。

【検査科におけるもう一つの役割】 患者様の安全は、病院における大きな業務の一つですが、その中で院内感染対策があります。検査科では、学んできた微生物についての知識と、院内で最も早く結果を知ることなどを活かして、情報のフィードバック、検出された菌の統計的データ等、感染制御チームの幹事として協力しています。

【その先を目指して】 院内で実施する検査については、熟慮に熟慮を重ね必要な項目を選択した。これら選択した検査が、一層精度の向上が図られるよう努力するとともに、今後行われるであろうオーダーリングや電子カルテの導入等、検査としてできる可能な限りの協力をしていきたいし、一部きっかけは作ってあるつもりです。それにも増して必要な事は、他部門との協力がより強固なものであり続けるために、「あらゆるニーズに応える、それがプロ」でありたいと思っています。

第7回 医療法人社団鵬友会 幹部研修会 開催しました！

平成22年7月23日・24日に箱根ホテルにおいて、第7回医療法人社団鵬友会幹部研修会を行いました。この研修会は毎年1回、法人各施設の管理職員に対して行われるもので、職員一人ひとりの意識付けや施設を超えた法人全体の交流を深めることを目的としています。研修会当日は、50名を超える参加者へ向けて、理事長や常務理事をはじめ各院長・施設長から熱のこもったメッセージが送られました。



【児玉 喜直 理事長】

初めに、当法人の**児玉理事長が挨拶**に立ち、「業務を行う中で、問題も出てくると思います。それを上手く乗り越えるためには、職員の意識を確立させ、職員全体がコミュニケーションを図って業務を行うことが重要である。」と述べられ、改めてこの研修会の意義を強調されました。



【池島 守 常務理事】

続いて演台に立った**池島常務理事**は、まず初めに「昨年の決算を良い形で終えられ、職員の皆様には感謝しております。」と述べられ、講演に入りました。その中で、**法人の基本理念**や**組織概要**、**今年改定された診療報酬**について解説した上で、各施設での考え方や取り組みについて具体的な方向性を示し、「当法人には、救急病院・療養病院・認知症専門病院・在宅部門など患者の様々な症状に対応できる施設が揃っています。その施設を最大限利用できる様に、法人についての理解を職員全員に周知徹底させ、連携を深めて下さい。」と話されました。さらに、「幹部職員は経営者の一員。部下一人ひとりの個性を見極め、自分の目で判断して下さい。」と幹部としての心構えを述べ、講演を括りました。



福新
田中
川千
文院
院長



小横
阪浜
ほう
憲司
院長



末阿
盛久
和鳳
一荘
施設
長

続いて各院長、施設長からの挨拶の中で、**新中川病院福田院長**は、経営が上向いていても、地域から選んでもらえなくなったら終わり。そのために、病院設備や医療サービスの充実を行っているが、さらに大切なのは、その事を職員全員が認識し、皆で病院を運営しているというプライドを持って日々の業務を行っていくことだと訴えられました。

横浜ほうゆう病院小阪院長は、外来・デイケアの充実、機能評価受診は以前と同様に今後も継続して行っていくとし、今後は職員に院外・院内とを問わず様々な研修に参加してもらい、各々のレベルアップを図りたいと話し、さらに10周年を迎えるにあたり、職員に何か還元していきたいと述べられ、最後に10月22日に行われる市民講座の概要について話されました。

阿久和鳳荘末盛施設長は、介護の現場は数年前までは厳しい職場であったが、現在は、若い人材が多くなってきている。鳳荘も若い職員が多く、活気があり、業務も自発的に行っているのが、施設長として非常に恵まれていると痛感しています。介護産業はこれからの分野という希望を持って、他の3病院と緊密に連携を取りこれからもやっていきたいと述べられました。

～第14回 市民向け医療・福祉講座 開催のお知らせ～

日時: 平成22年10月22日(金) 18:30～ **場所:** 旭区民文化センター サンハート
テーマ: 「認知症の正しい理解とその対応」 **講師:** 横浜ほうゆう病院 院長 小阪 憲司
参加費: 無料 **お申し込み/お問合せ先:** 鵬友会法人本部 tel:045-810-0331 まで